

環境問題解決へのシステム構築に関する研究

— Systematic Approach to Solve Environment Problems —

竹林 征三 Seizo Takebayashi*

1. はじめに

神が自然界、宇宙界全てを創生したところから始まる一神教であるキリスト教等の教えの社会においては、天地万物を創生した神の真意はどこにあるかを分析しようとしたのが科学者ではなかったか。個別要素の自然現象を克明に計測し分析することにより宇宙全体の普遍的法則性、即ち神の真理（真意）を知ろうとした帰納的方法論が近代科学の方法論ボトムアップ型論理であり、この方法論が現在の物質文明を築き上げてきた。

一方、人間の生存と生活の上で生じる全ゆる人を悩ます諸現象の真理追求し、その結果より人々の救済法を求めてきたのが宗教家であった。中でも仏教や道教を始めとする東洋の教えは人を悩ませる自然現象や精神現象を深い観察に基づく考察より、包括概念の構築をはかりその分類化を通じ真実を追求し、個別現象の解釈を行おうとしてきた。この真理追求の演繹的方法論が東洋の教えのトップダウン型論理である。

近代文明の発展は人間の生活を物質面で豊かにしてきたがその限らない拡張によって到達した地球の有限性から次々と大きな問題が生まれ人間の存在が脅かされている。

人間の存在に深く関わって起きている諸問題の典型で最も深刻な問題の一つが環境問題であろう。環境の危機は人間自身の欲求や欲望がつくり出しているものであるので、消費の量的規制という問題を超越人間の基本的な生活様式や価値観、文明のあり方の根本的な検討、ひいては社会の全体的な構造変化を必要としている。

西洋の科学者が追求してきた近代科学が現代の文明と共に環境問題をもたらしてきた。環境問題解決に向かい近代科学は有効な手段を見い出せないでいる。このような現代、東洋の教えから環境問題解決への手がかりを探る。

2. 環境問題解決へのシステム構築

— 「般若」の智慧に学ぶ—

環境問題とは我々人間を取り囲む、人間社会、地域、地球、宇宙の諸構成要素が相互に複雑に関係し合って生じている、人間にとって好ましくない様相である。

人間が存在していることは、無限の繋がりがあある時間的、空間的な諸事象から影響を受けていると共に、反対に影響を与えているということである。それらの相互関係が仏教でいう因果の関係であり、環境問題に於ける環境作用と環境形成作用等の関係である。錯綜した環境問題の体系化にあたっては、宇宙の真理、宇宙の因縁の総体を見極める認識把握する能力「般若」から多くのことが学べる。

環境問題解決への智慧には四段階ある。即ち、Knowledge知識の第1段階からWisdom智慧の第2段階、更に般若の第3段階（般若とは真実の深い智慧であり般若に対する適切な英語が見あたらないのでここではDeep Wisdomと名付ける）、そして最終段階とし

	西 洋	東 洋
真理追究の方法論	個別現象の計測 ↓ 普遍化（法則的） ↓ 包括化・体系の構築 要素（個物）→全体（宇宙） （帰納的） ボトムアップ型論理	包括概念の構築 ↓ 分類化 ↓ 個別現象の解釈 全体（宇宙）→要素（個物） （演繹的） トップダウン型論理
	科学者	宗教家

Keyword、環境システム、環境計画、環境基礎論

*建設省土木研究所 環境部長 土木学会フェロー会員

〒305 茨城県つくば市旭一番地 TEL 0298-64-2211 FAX 0298-64-7183

般若の智慧に学ぶ環境システム

五種般若		五 智	五智の意義	環境五智	環境問題解決への智慧
摩訶般若	眷属般若 けんぞくはんにょ	法界 ほっかい 体性智 たいしょうち	究極的实在(真理の世界)をそれ自体を明確にする智慧	科学的方法論の駆使	環境問題の真理を探索し明確にするには近代文明を発展させた科学的手法駆使することが必要である。
	実相般若	大円鏡智 だいえんきょうち	大宇宙の一切を包容し、一片の誤りもなく完璧に写しだす鏡のような大智慧	総合環境学 体系の確立	環境問題とは時空間にわたる森羅万象にわたり、相互に複雑に関係しており、円球的な把握が重要である。
	境界般若	平等性智 びやうどうしょうち	清浄無垢なレンズから外界を眺めると森羅万象が平等に受け取れるという智慧	個別部分環境学としての把握	環境問題とは広範多岐にわたる極めて多くの学問の対象でありそれら個々平等に重要である。
	観照般若 くわんしょうはんにょ	妙観察智 みょうくわんさつち	十分に(妙)観察し、本性を理解する智慧	循環・遷移作用・反作用	環境問題の個々別々の現象であるようであるが精緻に分析し考察を深めれば法則性、構造的性が理解されてくる。
	文字般若 もんじはんにょ	成所作智 じょうしよさくち	日常生活のあらゆる所作(実行)を正しく誤りなくする智慧	知・敬・馴の環境道	環境問題解決への具体的な実践項目方法論が大円鏡智、平等性智、妙観察智の結果おのずと明らかになる。

若、成所作智は文字般若にそれぞれ通ずる概念である。

以上のように五種般若の価値は極めて大きく、及ぶ範囲は無限であり、何事にもまして勝れている。

「大」「多」「勝」の概念を包含する「摩訶」を冠する般若がそれらの総括である。

この五種般若を総括した偉大なる智慧の概念が摩訶般若ということになる。

しからは環境問題解決への智慧の結果は、どのようにすれば良いのであろうか。般若の智慧は更に私達に大切なことを教えてくれている。

4. 環境蔓荼羅

五種般若に対する仏の五種の智慧「五智」を密教(大悲空智金剛大教王経)では、五智に五仏を配し、おのおのの仏に五智を具えさせている。この五仏が

五智如来である。更に、人間の欲望の中で五つの代表的なものを挙げ、この五欲を五つの仏がそれぞれ消滅させる働きを持たせ、そしてこの五智如来の所在位置を定めている。

即ち、大日如来は中央に位置し、法界体性智を具え、「痴」を退治する。阿門如来は東方に位置し、大円鏡智を具え「瞋」を退治する。

宝生如来は南方に位置し、平等性智を具え、「慳」を退治する。阿弥陀如来は西方に位置し、妙観察智を具え、「貧」を退治する。更に、不空成就如来または釈迦如来は北方に位置し、成所作智を具え「嫉」を退治するとした。これを図示したのが金剛界五解脱輪ということである。この五解脱輪の構成は今日の錯綜し、解決への糸口がつかめていない環境問題解決に向けての智慧の結集即ち、学問体系化と学問

の位置付け、そして結集システムを教えてくれている。それを図示したのが環境曼荼羅である。

